

# 福祉公社通信



## 9月号

発行日

平成 29 年 9 月 8 日

【第 54 号 (月刊)】

福祉公社は、武蔵野市が全国に先駆け、昭和 55 年に設立した在宅サービス提供機関です。

誌名「羅針盤」はご利用者を包括的に支援し、その人生と共に歩むサービスの基本姿勢を表したものです。

季節外れの戻り梅雨のような、記録的な長雨の 8 月でした。

炎天が恋しくなる毎日が続き、久々に差した日の光の有難さを実感しました。ゲリラ豪雨も襲来しました。

しかし、季節は確かに経廻り、秋の月の光の中で鈴虫が唄う夜長月の到来です。

夏の疲れが出やすい季節ですが、皆様には、どうぞ、お健やかに過ごしてください。



<紙面から>

権利擁護事業等運営監視委員会

苦情対応第三者委員会 …1ページ

エンディングノートが気になる方へ④ …2ページ

納涼囲碁・将棋大会 移乗介護技術講習会

テーブル菜園 …3ページ

お知らせ リレーコラム …4ページ

## 平成 29 年度第 1 回権利擁護事業等運営監視委員会

福祉公社は、ご利用者の財産管理に関する権利擁護事業等の適正性、透明性、公平性等を担保するため、社内での段階的なチェックに加え運営監視委員会を設置し、第三者による監視を受けています。

この委員会が 7 月 28 日に開催されました。監視対象は平成 29 年 1 月 1 日から 6 月 30 日までの業務執行です。

ご利用者数は成年後見人等受任 122 名、地域福祉権利擁護事業 46 名、生活保護受給者金銭管理支援事業 32 名などで、監視対象期間中の金銭管理(出納)は 1,955 件でした。

委員会に先立つ 7 月 14 日に 9 時 30 分から 15 時まで税理士の亀田委員他 3 名体制で、新規契約者の保管物や期間中の各事業の全ての出納を確認し、いずれも適正に管理されていることを確認しました。

棚橋委員長から、「これからも高齢化の進行や成年後見制度における社会的要請により、ますます福祉公社の存在が重要になる。後見等の件数増加に耐えうる人員の確保を願う」との講評がありました。

今年 3 月に成年後見制度利用促進基本計画が閣議決定され、市町村に中核機関の設置が求められているなど、この分野のニーズは益々増大しています。

これからも市民の皆様の信頼に十全に応えられる事業を実施いたします。



## 苦情対応第三者委員会

福祉公社は第三者委員会を設置して苦情に誠実に対応し、それをサービスに活かすことに努めています。

萱場理事長は「苦情こそビジネスチャンス苦情を共有し、ヒヤリ・ハット事例を含めてサービス向上を目指すように」と常に職員に指示しています。

5 月 30 日に今年度第 1 回の委員会が持たれました。28 年度の苦情は権利擁護センター 1 件、社会活動センター 5 件、高齢者総合センター・デイサービスセンター 2 件、在宅介護支援センター 1 件の全 9 件でした。

第三者委員による解決事例はありませんでした。

三上委員長からは、「苦情と言うよりも意見が多い。これを契機に業務を見直し、ご利用者の心情を理解することが重要」と講評されました。

今後もサービス提供の向上に尽力いたします。

権利擁護事業等運営監視委員及び苦情対応第三者委員の紹介を次ページに掲載しております。

## 権利擁護事業等 運営監視委員 紹介



写真左から順に  
勅使康友 委員  
(司法書士 リーガルサポート)  
亀田義治 委員  
(税理士)  
棚橋正尚 委員長  
(元武蔵野市高齢者福祉課長)  
小原光文 委員  
(NPO 法人ミュージー事務局長)  
矢島和美 委員  
(武蔵野市民生児童委員協議会会長)

写真左から順に

栃折暢子 委員  
(武蔵野市主任児童委員)  
三上義樹 委員長  
(社福 至誠学舎東京  
常務理事)  
浜崎宏 委員  
(弁護士)

## 苦情対応第三者委員 紹介



# エンディングノートが気になる方へ ④ 権利擁護センター プチ講座

このプチ講座も今回が最終回です。初回にお伝えした「3つのポイント」を振り返りましょう。

- ① 「もしものとき」をイメージしながら必要な項目をつくる
- ② 「これが分かれば、あとは大丈夫」という最少限の情報を簡潔に
- ③ 「誰に」「何を」をお願いするかを明確にし、事前に合意する。



まず“エンディングノートは1日にしてならず”ということで、周囲の人が困らないために最少限必要な項目を優先して記入していくことが大切です (①)。

そして内容を書く際には、ある情報全てを伝えなくても良いということ…つまり本当に必要な(具体的な内容を調べることができる、そのきっかけとなる大事な)情報を簡潔に記すことで、よりの確に自分の希望を伝えます (②)。

さて、そして最後のポイント (③) は“誰に」「何を」をお願いするかを明確にすることです。

例えば、「葬儀は不要」との希望をノートに記すとします。すると次に考えなければならないのは、それを誰にお願いするかということです。自分の希望を誰に叶えてもらうかを明記して、単なる希望事項ではなく実現可能なものとしなければなりません。しかし、ただ依頼先の名前を記入するだけでは足りません。いざ事がおきた時、本当にその人が責任を持ち、その役割を担ってくれるのか、たとえ普段は「縁起でもない」話しにくい内容だとしても、大切なことを確実に頼むには、お互いに事前確認が必要です。「あの人ならやってくれるはずだ」、「親戚の誰かがしてくれるだろう」という一方的な考えだけで記載しないようにしましょう。是非、書く前に一度、先方と話しをして、調整してください。場合によっては考え直したり、依頼先を変更したりすることがあるかもしれません。また、ある時点で決めたことが、その後の状況の変化で変わるかもしれません。その時々で振り返り、確認しておくことが、より良い備えとなります。



エンディングノートはご自身のお気持ちを伝える手段でありながら、自分だけで完結するものではありません。そこには、いずれノートを読み、その内容を実現する他者が存在するのです。エンディングノートは、言わば、自分と他者をつなぐノートでもあります。自分の安心のためばかりではなく、その後に、作成者の意思実現をする他者の行動基準となる大切なものです。

人生を全うすることは、一人では出来ません。どなたにも必ず人生の最後を手伝う“誰か”がいます。それは、親族や知人、あるいは福祉公社かもしれません。

人はそれぞれ、多種多様な環境や人間関係を持っています。ご自分にとって有意義なエンディングノートを作成なさり、これからの生活を、より安心できる、豊かなものにしていただければ幸いです。

## 納涼囲碁・将棋大会開催

7月21日、28日に63歳から91歳までの80名が囲碁・将棋大会に参加されました。日頃、高齢者総合センターの囲碁将棋コーナーやコミュニティセンターで腕を磨いた方々が盤上の格闘技・静かな熱戦を繰り広げました。対局を終えた何人もが熱戦中の盤を囲み、論評し合ういつもの光景も親睦を深めます。

優勝は将棋大会・佐脇健一氏、囲碁大会・四段以上の部竹下登氏、初段～三段の部、島津正次氏、1級以下の部の野中雅夫氏です。おめでとうございます。

佐脇氏は、話題の加藤一二三九段と同年、九段との違いは「今の私は最強です」とウイットに富んだコメントに、会場が沸きました。

ご参加者からは「頭と体を使うから対局で随分やせるよね、お昼が美味しくなるよ」「年に2回の囲碁大会にかけているから、毎回楽しみだよ」「こんなに熱中できるものがあってよかった」とのご感想を頂きました。次回は新春大会です。ふるってご参加ください。



囲碁大会



将棋大会

## ホームヘルプセンター武蔵野 移乗介護技術講習会



ホームヘルプセンターには公益的見地から市内の介護人材の育成やケア技術の向上を図る役割があります。

7月21日に「リハビリ専門職から習う移乗、床からの起こし方～訪問した時に転倒など想定外のことが起きて慌てないために～」と題して講習会を開催し、33名の介護職の皆様が受講しました。

講師は武蔵野市 PTOTST（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）協議会会長の前床剛氏をはじめとする市内病院勤務のリハビリ専門職の方々8名です。実践的な学びと多職種連携の良き機会となりました。

参加者からは、「はじめての技術を知り、とても参考になった」「今までの自分のやり方が利用者様に負担をかけていたと気付いた」「ボディメカニクス的重要性を改めて感じた」など、全員から高評価のご感想を頂きました。今後もヘルパー全体のスキルアップをめざし、多種多様な実践的研修を実施します。



## 育てて楽しい♪ 食べて美味しい♡「テーブル菜園」

高齢者総合センターデイサービスでは関前ふれあい農業公園で園芸プログラムを実施しています。武蔵野農業ふれあい村の齋藤村長やボランティアの皆様から野菜作りのいろはを懇切丁寧に教わり、4月から7月の木曜日に計10回実施しました。使用する「花びら型テーブル菜園」は椅子や車椅子に腰かけて農作業ができるスグレもののプランターです。毎回5人の少人数プログラムですが、往復の車中のおしゃべり、広い畑で季節を感じる開放感、それだけでご利用者の表情が生き生きと輝きます。ラデッシュ、リーフレタス、水菜、ミニトマト、枝豆など色々な野菜を育て収穫、試食。笑顔一杯で活動を終わりました。



昼食の野菜を食べ残す方も採りたての野菜を美味しく召し上がります。また、畑に来ていた子どもたちと交流し、蝶や虫、小鳥、花々、果樹、流るる雲など周りの自然に癒され話題は尽きません。活動後は程よい疲れと達成感を味わいました。9月中旬から秋のプログラムを開始します。



# 会社からのお知らせ

## おいじたく講座 ～おいじたくの基礎知識～

誰にでも訪れる老いに備え、元気なうちから準備して尊厳ある老後生活を築きましょう。

日時 9月28日(木)18時00分から19時30分  
場所 福祉公社 1階会議室

## ～エンディングノート講座～

日時 10月12日(木)18時00分から19時30分  
場所 福祉公社 1階会議室

問合せ 在宅サービス課 権利擁護センター  
申込 ☎ 23-1165

## 長寿を寿ぐ「敬老の日の催し」

～どうぞ当日会場へお越しください～

日時: 9月18日(月・祝)9時から16時30分  
場所: 高齢者総合センター

内容: ① 囲碁・将棋コーナー開放  
9時から16時30分



② 100円チャリティヘアカット  
10時から12時(定員60名)



③ カラオケ講習会(講師 浜より子氏)  
13時30分から15時30分(定員100名)

参加費: 無料(ヘアカット100円)

対象: 市内在住の60歳以上の方

問合せ: 高齢者総合センター

☎ 51-1975



## 職員リレーコラム

### 第40回 「生涯現役」



### ホームヘルプセンター武蔵野 野村 由美

子どもたちを連れて、久しぶりに松本の実家に帰省した。83歳になる父は、ぶどう園の中で穏やかな笑顔で迎えてくれた。跡取り息子だった父は農業高校にしか行かせてもらえず、そのため、子どもたちが大学へ進学し、それぞれの途を歩むことを応援してくれた。父は水田をつくり、果樹園を広げ、作地をしながら地域活動も行ってきた。粗食で早寝早起き、朝6時くらいから農作業に取り掛かる。1日、1週間、1年間、それ以降の予定も父の頭の中にはあるのだ。農学部に進学した孫のことをとても喜び、トラックに乗せて田畑を説明して回ったそうだ。日々高齢の方と接している私にとって、安心であり、喜びであり、誇りでもある。そんな父を見ていると生涯現役という言葉が浮かぶ。私も目標にしたい。 ⇒ 次回は ホームヘルプセンター武蔵野 田中 陽子



編集・発行 公益財団法人 武蔵野市福祉公社

次号は平成29年10月10日発行予定です



### 武蔵野市福祉公社・ホームヘルプセンター武蔵野

東京都武蔵野市吉祥寺北町1-9-1

バス停「武蔵野八幡宮前」下車

☎0422-23-1165 (総務課、在宅サービス課)

☎0422-23-2611 (ホームヘルプセンター武蔵野)

### 武蔵野市立高齢者総合センター

東京都武蔵野市緑町2-4-1

バス停「武蔵野住宅」下車

☎0422-51-1975 (管理・社会活動センター)

☎0422-51-1974 (在宅介護支援・補助器具センター)

☎0422-51-2933 (デイサービスセンター)

### 武蔵野市立北町高齢者センター

東京都武蔵野市吉祥寺北町4-1-16

☎0422-54-5300 バス停「北町四丁目」から徒歩三分  
業務時間 8:30~17:15 (全て共通)

福祉公社ホームページ

URL <http://www.fukushikosha.jp/>